

魚津市中心市街地地区

(富山県魚津市)

- 計画期間 令和3年度～令和7年度
- 面積 278.2ha
- 交付対象事業費 1,360百万円
- 市人口 40,298人

ポイント

中心市街地を活性化し、生活・交通の利便性を高く確保し、未来を担う若者たちにつなげる魅力的なまちづくり

目標

賑わいのある魅力的な中心市街地の形成
日常生活に必要な機能が整った利便性の高い居住環境
利便性の高い公共交通ネットワークの形成

地区概要

拠点施設や駅前広場整備及び歩行空間整備を行うことにより、賑わいのある魅力的な駅周辺を目指し、人々を惹きつける中心市街地としての再興を図る。

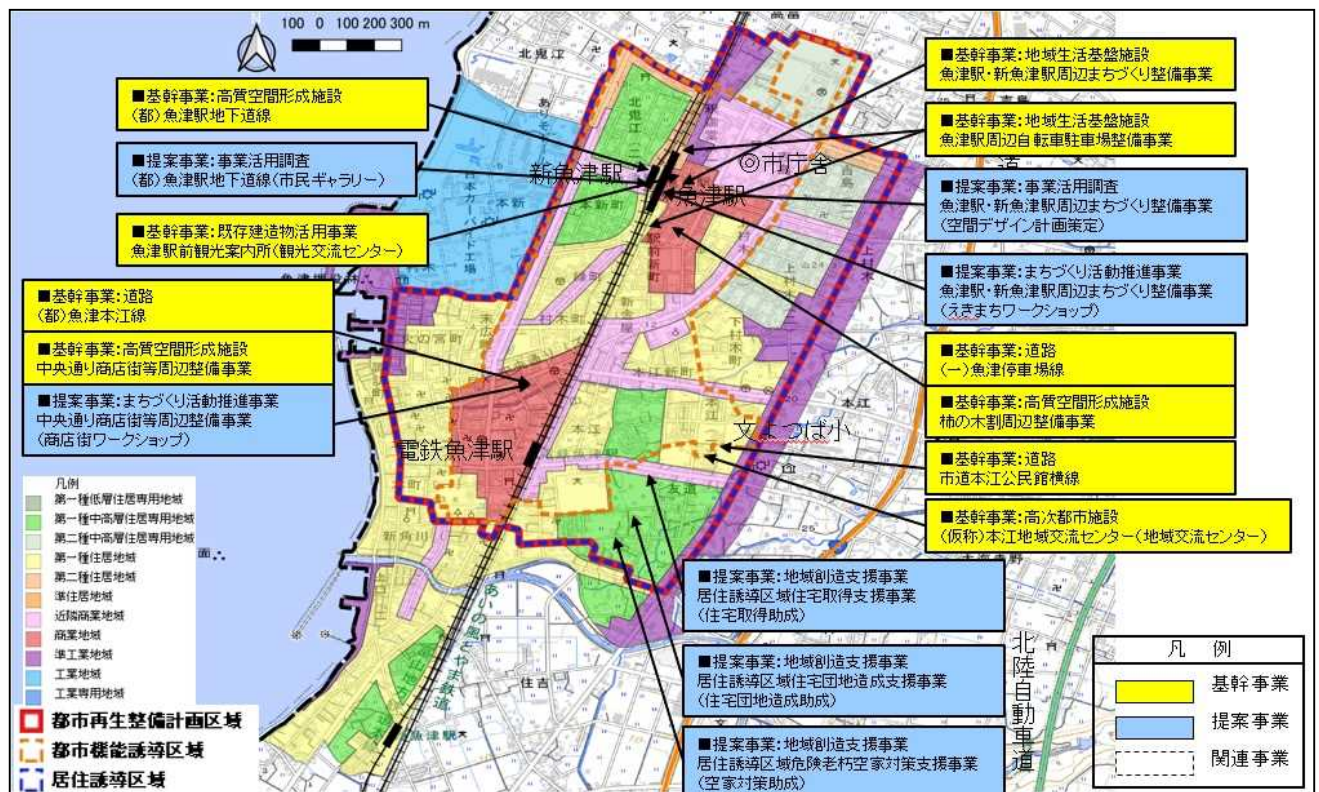
指標

賑わいを創出することによる拠点施設の利用者数の増、魅力的なまちづくりを進めることによる人口の維持、歩行空間整備をすすめ、回遊性を高めることによるバスの利用者数の増を図る。

交流センターの利用者数(人/年)	14,595 (R1)	→	20,000 (R7)
居住誘導区域内の人口密度(人/ha)	34 (H27)	→	34 (R7)
市内バス利用者数(人/年)	177,000 (H30)	→	168,000 (R7)

事業内容

基幹事業 (1,220 百万円) → (仮称) 本江地域交流センター、魚津駅・新魚津駅周辺まちづくり整備事業
中央通り商店街等周辺整備事業
提案事業 (140 百万円) → 居住誘導区域支援事業、空間デザイン計画策定事業



地区の現況と課題

本地区は、商業施設、保健福祉施設、業務施設及び教育文化施設が集積するとともに、魚津駅・新魚津駅、電鉄魚津駅が立地し、重要な交通結節点として本市の中心市街地として機能している。

これまで、平成 16～20 年度にまちづくり交付金を活用して、高質空間形成施設や公園などを整備し、また、平成 27～令和 2 年度に社会資本整備総合交付金を活用して都市計画道路の整備を推進し、新たなにぎわいの創出や地域住民及び来訪者の利便性の向上を進めてきた。

近年は空家が増加し、都市のスポンジ化と郊外開発によるスプロール化が進行し、まちなかの魅力の低下により商業等の衰退が見られる。これらに加えて、これからの少子高齢化、人口減少時代を迎えるにあたり、課題解決の一つとして、コンパクトシティ・プラス・ネットワークを基本とした持続可能なまちづくりを目指している。

提案事業の特徴

居住誘導区域支援事業

居住誘導を促進するため、転入者または市内居住者で居住誘導区域および都市機能誘導区域内に住宅を取得された方や住宅団地の造成を行う者に助成を行う。また、危険な空家を解体し、居住誘導を促進するため、居住誘導区域内の空家に対して助成を行う。

空間デザイン計画策定事業

当計画の整備を進めるにあたって、都市景観に統一感を持たせるよう、デザイン検討を行う。また、活性化につながる整備方針について、事業者及び周辺住民等によるワークショップを開催する。

計画策定プロセス

平成 29 年から、「魚津駅・新魚津駅周辺まちづくり協議会」を設置し、魚津駅・新魚津駅周辺を中心としたまちづくりを推進し、駅舎や駅前広場の整備及び駅周辺地区における市街地再開発、低未利用地の活用等を一体的かつ効果的に整備することで、県東部の中心都市の玄関口としてふさわしい活力あるまちづくりを実現させるために、令和 2 年 3 月に「魚津駅・新魚津駅周辺まちづくり基本構想」を策定し、これに基づいた取組みを進めている。



▲ 魚津駅・新魚津駅周辺 現況



▲ (仮称) 本江地域交流センター
整備イメージ図



▲ 魚津駅東広場 整備イメージ図



▲ 魚津駅・新魚津駅周辺まちづくり協議会
協議中の様子